

2. 予算線

予算線で理解することは次のことに尽きる。

一方の財の値段が下がった時、予算線はどのように変わるのか。

「まず、予算線を描いてもらおう。たとえば、予算を10万円持っていて、TDLとTDSのパスポート料金が5000円の場合を想定する」

「パスポート今は6400円ですけど」

「計算が面倒になるからね、わかるでしょ。そこは。」

とりあえず、次の3つのグラフを描いてほしい。

(1) 縦軸にTDLに行く回数、横軸にTDSに行く回数をとったら、どのようなグラフになるか。

(2) (1)のケースで予算が5万円の時はどんなグラフになるか。

(3) TDSの値段だけ2500円になったらどんな予算線になるか。

「どういう風に描けばいいのかよくわかりません。縦軸、横軸の単位はなんですか？回数だから「回」だよ。TDLだけ行った場合、TDSだけ行った場合はわかるよね。それを結んだものになる。そうやってグラフを描けば、(2)、(3)の場合もできると思うよ。」

所得が増えると、予算線は平行移動して右に行き、所得が増えると平行移動して左に行くことがわかればいいんだけどね。それは、まあわかるだろう。」

「所得が増えれば、行く回数も増えます。2倍に増えれば2倍行ける回数が増えるということですね。夢のようですが、まあ単なる仮定ですね。」

「それぞれの価格が変わらなければ、後で出てくるように直線の傾きは変わらない。だから平行移動になるというわけだ。」

問題は価格が変化した場合の予算線だ。これは後で所得効果、代替効果の分析で出てくるので必要な知識となる。

結論からいえば、ある財の価格が下がると、予算線の傾きが変わる、ということだ。これは理解しておいてほしい。

「価格の動きと予算線の動きって、直感的には結び付かないですね。」

「そうなんだよね。ワンクッションおいて理解する感じになるかもね。考え方としては、上で計算したようにx軸、y軸と交わる数量に注目する。予算

線は、右下がりの直線になるけれど、その傾きは、一方の財だけ買った場合の数量から計算できる。ディズニーランドの例で、予算をMとすると、

直線の傾き = - (T D L だけ行ったときの回数) / (T D S だけ行った時の回数)

となる。それぞれの回数は予算 ÷ 価格だから次のように書ける。

直線の傾き = - (M / T D L の値段) / (M / T D S の値段)

これは、

直線の傾き = - T D S の値段 / T D L の値段

となる。

「結構面倒ですね。数式じゃないので余計わかりにくいかもしれません」

「まあ、そういう面もあるけど。この方がわかりやすいという人いると思うよ。ともかく、予算線の傾きが、2財の価格の比になるということがわかればいいよ」

【問題】

- (1) 縦軸に T D L に行く回数、横軸に T D S に行く回数をとったら、どのようなグラフになるか。
- (2) (1) のケースで予算が 5 万円の時はどんなグラフになるか。
- (3) T D S の値段だけ 2 5 0 0 円になったらどんな予算線になるか。